

和歌山県知事  
仁坂 吉伸 殿

2011年12月22日  
放射能から子どもと命を守る有志一同の会  
湯浅 知美  
内海 洋一  
原発がこわい女たちの会  
世話人 代表 松浦 雅代  
連絡先 和歌山市西庄 1024-15  
☎・f a x 073-451-5960

## 申し入れ書

3月11日の東北地方太平洋沖地震による福島第一原発事故は、放射性物質を環境中に大量に放出し、現在も放出し続けています。私たちはすべての生き物と同じように、したくもない被曝をしてしまいました。子どもたちへの影響は計り知れないものがあると考えています。私たちはすでに食物連鎖を通じて、内部被曝をしています。広島原爆の168倍ものセシウムが環境中に出ています。この現実を直視し、これから子どもを育てていかなければなりません。

このような状況の中で、先月11月21日、22日に県主催の「食の安全シンポジウム」・テーマ「放射能による人体への影響について」講師として「伊藤哲夫氏、近畿大学原子力研究所長・日本原子力学会理事」が講演しました。

私たちは今回のシンポジウムの講演内容等について極めて問題があると考え、以下の点について質問をします。

なお、2012年1月13日までに文書をもって回答をお願いします。

### 記

1. 今回の「食の安全シンポジウム」の目的は何かを明らかにして下さい。
2. 講師の選定はどのように検討をされて決められたのですか。  
福島第一原発事故で、原子力推進学者（日本原子力学会理事など）のウソ、誤魔化しが明らかにされたにもかかわらず、選定した理由。
3. 参加者(和歌山市・田辺市)について事前の一般応募者人数及び当日の参加者人数について明らかにして下さい。
4. 放射能瓦礫受け入れ問題について  
11月21日の会場で、伊藤哲夫氏の講演の後、質問を一人に限定された中で、たくさんの参加者が挙手していましたが、一番最後列の背広姿の人が指名されました。その質問者は伊藤哲夫氏講師の話の質問ではなく、唐突に「瓦礫について」質問しました。会場に居てその質問に、すごく違和感を持ちました。講師回答として「安全性が一定確保されれば受け入れるべき」の趣旨の回答がありましたが、この回答に対する県の見解について明らかにして下さい。

以上